

「専攻科福祉専攻の閉科」に寄せて ～2005年福祉情報「浴衣着付け教室」から16年経て思うこと～

山野流着付け教室 着付師 手塚照子

2005年9月17日に、豊橋創造大学短期大学部専攻科福祉専攻の「福祉情報展」の「浴衣着付け教室」の企画に参加させていただきました。学生さんをスタッフとして様々な障害のある方、健常者、老若男女問わず、市内、名古屋、東京からも来校なさっていました。

障害をお持ちでも、車椅子ダンスをなさっている方に、お振袖を着付けしたりして、そのままの格好でダンスをしたら素敵だろうと思いました。また、障害をお持ちになって写真撮影が趣味とされていた60代の方も、一度は来てみたかった若々しい色柄のお着物を選ばれて、にこやかにカメラにおさまる様子は、私どもも知らぬ間に、笑顔になって、参加させてもらって、エネルギーをいただきました。また、下肢の不自由な男性に浴衣を着ていただき、校内を回ってもらいましたら、終了時間近くまでもお戻りにならず心配をしましたが、「着物がこんなに着心地がよいとは全く知らなかった。驚いた。」とお聞きし、皆で顔を見合わせて「やったね！」と。私どもは、大学様のこうした機会によって、山野流着物教室としての活動の一つとして、「あらゆる人に平等に着物のよさ」を伝える着物師としての使命ややりがいを感じることができ楽しい時間を過ごさせていただけた思い出の1日でした。

あれから16年を経て、2021年6月17日に、今度は学生さんに、浴衣の着付けと障害のある人の着付けを行うことを目的に来校させていただきました。コロナ禍の中で、着付け教室は口頭で伝えるのは難しい場面も多く、少しの時間でしたので車椅子着付けの手助けができたか不安でしたが、学生さんの意欲ある姿勢にまず驚きました。1回だけで浴衣の着付けができたことは、実際に「着せてあげたい」という温かい気持ちがあるからだと思い、またもや、新しい感動をさせていただき感謝申し上げます。

専攻科福祉専攻は、16年経ても変わらず、学生さんたちを豊かな教育をされ福祉の世界に送り出されてきたのだとしみじみ感動し、専攻科福祉専攻の学生さんは、幸せ者だと思いました。

しかし、今年度で廃止になることを知りました。これからの時代、今以上に介護の専門職の人の活躍は求められます。保育士資格を持ち、介護福祉士を持つ方の輩出がこれでおしまいとは、大変もったいないと思います。公私を問わず「保育」「介護」は必要ですし、どちらの道を選んでもレベルの高い大人の「保育士」、豊かで寛容な「介護福祉士」が育っていくと思います。きけば、東海5県では、唯一の大学での専攻科の介護福祉士の養成課程、大学の人材育成が閉ざされてしまうことを大変残念に思っています。これからは、専攻科の在校生や卒業生が大きな財産として、後進の人々へのアプローチをしていくことを期待しております。コロナ禍の続く中で、医療職の看護師の活躍ばかりが目立ちますが、同様に介護の重要性が必然となります。その価値を理解できる皆さん、誇りをもって社会的な活躍を希望します。